

第2章 昭和・大正・明治の鹿児島（鶴丸）城の姿

◆鹿児島大学医学部時代

1957（昭和32）年、鹿児島市鴨池町から鹿児島（鶴丸）城本丸跡に鹿児島大学医学部が移転し、城山キャンパスが開設されました。1974（昭和49）年には鹿児島市宇宿町（桜ヶ丘キャンパス）へ移転しました。

発掘調査の結果、ガラス製の薬瓶などがみつかっています。



カラス製の薬瓶



カラス製品・近代貨幣



軍用食器・陶器製ガスコンロ

用品、ガラス瓶等が出土しました。当時の学生らが使用したものかもしれません。

◆官立第七高等学校造土館時代

第8代の薩摩藩主島津重豪は、1773（安永2）年に藩学造土館を創設しました。1884（明治17）年には、鹿児島県立中学造土館が鹿児島（鶴丸）城本丸跡の地に開設され、さらに、1901（明治34）年には官立第七高等学校造土館が設立されました。

今回の発掘調査で、県立中学造土館の初代館長である島津珍彦の銅像台座の銘板（花岡岩製）と、官立第七高等学校造土館の初代校長である岩崎行親の銅像台座が出土しました。いずれの銅像も太平洋戦争時、銅像部分は金属供出され、台座のみが残ったと考えられます。学生が使用していたと考えられる文房具や生活用品もみつかりました。



銃・砲弾痕の残る石垣



銃弾痕と内部の金属

設置されていた排水溝内からも、銃弾や砲弾片なども出土しています。

詳細な観察の結果、西南戦争時に官軍が至近距離から2000発ともいわれる数多くの銃弾や砲弾を浴びせ、起爆する前に着弾した痕跡が含まれていることがわかり、壮絶な戦いであったことを物語っています。



学生が使用していたと考えられる文房具や生活用品



県立中学造土館の初代館長である島津珍彦の銅像台座の銘板(花岡岩製)

◆西南戦争時の鹿児島（鶴丸）城

御楼門部枠形内の石垣に大小無数の砲弾痕があることがわかりました。中には砲弾の信管と思われるものや砲弾片がそのまま残っている痕跡もありました。

また、御楼門内正面の石垣に沿って

設置されていた排水溝内からも、銃弾や砲弾片なども出土しています。

詳細な観察の結果、西南戦争時に官軍が至近距離から2000発ともいわれる数多くの銃弾や砲弾を浴びせ、起爆する前に着弾した痕跡が含まれていることがわかり、壮絶な戦いであったことを物語っています。